

## 美幌版総合戦略の数値目標に係る設定根拠

**基本目標 1** 地域での基幹産業を守り育て、強化するとともに新たな産業と雇用の場をつくる

■農畜産物販売額：9,900 百万円（平成 31 年度）

指標：第 6 期総合計画の「農業」に係る成果指標が「農畜産物販売額」であったことから、上位計画の方向性に沿うことと、「基幹産業を守り育てる」という基本目標に合致していることから、「農畜産物販売額」を指標とした。

数値：第 6 期総合計画では平成 30 年度「9,830 百万円」、平成 34 年度「9,915 百万円」

$$9,830 \text{ 百万円} - 9,747 \text{ 百万円} = 83 \text{ 百万円} \div 5 \text{ 年} = @16.6 \text{ 百万円}$$

$$9,915 \text{ 百万円} - 9,830 \text{ 百万円} = 85 \text{ 百万円} \div 5 \text{ 年} = @17 \text{ 百万円}$$

$$9,830 \text{ 百万円} + 16.6 \text{ 百万円} + 17 \text{ 百万円} = 9,863.6 \text{ 百万円}$$

$$9,863.6 \text{ 百万円} \neq 9,900 \text{ 百万円}$$

■認証材の出荷額：26 百万円（平成 31 年度）

指標：第 6 期総合計画の「林業」に係る成果指標が「町内における認証材の出荷量」となっており、それを流用して「出荷額」として使用し、上位計画の方向性に沿うことと、「基幹産業を守り育てる」という基本目標に合致していることから、「認証材の出荷額」として指標とする。

数値：第 6 期総合計画の「林業」に係る成果指標を元に計算。

平成 26 年度 出荷量 3,756 立米

出荷額 16,550 千円

単価 4,406 円/立米

実績の単価を使用し、成果目標である「6,000 立米」を掛け合わせた数値を設定。

出荷量 6,000 立米

$$\text{出荷額 } @4,406 \text{ 円/立米} \times 6,000 \text{ 立米} = 26,436 \text{ 千円}$$

■従業者数の増加：平成 26 年人比 3%増加（平成 31 年度）

指標：産業の育成・強化や起業などによる雇用の場を創出するのが目的であるため、町で働いている人数を指標として設定した。

新規雇用者数では、比較とするデータが存在しなかったため、5 年ごとに調査が実施されている「経済センサス基礎調査」及び「経済センサス活動調査」で使用されている「従業者数」を指標として設定した。

数値：「経済センサス基礎調査」の平成 26 年度数値が、平成 27 年 7 月に公表されたので、この従業者数を比較数字とする。

平成 26 年 7 月 1 日現在 7,220 人

$$\text{基本目標 2 の数値目標の転出入者数合わせて} +40 \text{ 人/年間} \times 5 \text{ 年後} = 200 \text{ 人}$$

$$7,220 \text{ 人} + 200 \text{ 人} = 7,420 \text{ 人} \rightarrow 2.69\% \text{ 増加} \neq 3\% \text{ 増加}$$

**基本目標2** 「びほろ」らしさを活かして、ひとを呼び込み・呼び戻す

■20代～40代の転入者数：年平均20人超過（平成27～31年度平均）

指標：人口ビジョンの分析において、当町は20代～30代の転出入が激しく、40代になると転出超過の差が大きくなる傾向にある。そのため、若年・子育て世代の定住を目的として施策を組むため、指標は「20代～40代」とした。

数値：過去3年分の当世代の転入者数平均値は「562人」（ビッグデータより）

人口ビジョンの将来展望において、「5歳～64歳までの転出超過を2割減少」を目標としているが、戦略の目標年である平成31年度では、まだ出生率向上や社会増減の移動幅への影響はそれほど出ていないことから、人口ビジョンの推計値を基に計算した。

20～40代 純推計5,213人 推計値5,382 増加人数169人/5年

年間34人の転入超過若しくは転出抑制しているとなる。

そのため、単純にその半分の人数を、過去の平均値に比べ年間超過する目標とする。

$$34 \div 2 = 17 \neq 20 \text{人}$$

■20代～40代の転出者数：年平均20人転出抑制（平成27～31年度平均）

指標：上記転入者数と同じ考え方。

数値：過去3年分の当世代の転出者数平均値は「632人」（ビッグデータより）

上記転入者数と同じ考えの基、過去の平均値に比べ年間抑制する目標とする。

$$34 \div 2 = 17 \neq 20 \text{人}$$

**基本目標3** このまちで出会い結婚し、子どもを生み育てたいという希望をかなえる

■合計特殊出生率：1.70（平成31年度）

指標：特になし

数値：人口ビジョンの推計方法において、

現状1.64 → 平成37年度1.80 → 平成42年度2.10

と計算させているため、それを単純に年間で割り返して、目標年である平成31年度に符合した数値を目標値とした。

$$1.80 - 1.64 = 0.16$$

$$0.16 \div 10 \text{年} = 0.016$$

$$0.016 \times 4 \text{年後 (H31年度)} = 0.064 + 1.64 = 1.704 \neq 1.70$$

■婚姻届出数：100件（平成31年）

指標：出生数につながる最初の門出として「結婚」があることと、当町の基幹産業である農業などの一次産業や商工業の後継者の未婚問題があることから、「婚姻数」を指標とした。

数値：過去5年間の婚姻届出数を元にして設定。

平成22～26年婚姻届出数 85件/年

結婚世代の転出入者数+34人/年間と考え、それらが仮に結婚した場合の届出が17件として、加算した。 85 + 17 = 102 ≠ 100件

#### 基本目標4 住み続けたいと思える生活環境を整える

##### ■「美幌町に住み続けたい」と思う人の割合：85%（平成31年度）

指標：第6期総合計画のための町民アンケートにおいて既に下地があったことと、国の総合戦略や他市町村の指標を参考にし、当該指標に設定した。

数値：過去に実施した町民アンケートを参考にした。

平成17年度 84.6%

平成26年度 72.4%

平成17年度を見ると、20代以下が60%台、30～40代以下が70%台となっており、50代以上の年代の方たちは90%以上と、年代が上がるにつれて定住思考が上昇した。

しかし、この方たちが10年経過した平成26年度になると、定住思考の低い方たちの年代が上がり、20代以下が59%、30～40代が60%台、50代が70%台と、全体的に定住思考が下がる結果となった。

そして、高い世代になるほど定住思考が強まるということは、子育てや仕事などが落ち着き、生活環境が固まったからだと思われる。

以上から、産業構造や子育て環境を整えることで、定住思考が低い若年世代からの押し上げを図ることを目標とし、平成17年当時の数値を目標値として設定した。

##### ■「若年世代(10代～30代)の「住みよい」「どちらかといえば住みよい」と思う人の割合：80%

指標：第6期総合計画のための町民アンケート及び中高生アンケートにおいて既に下地があったことと、人口ビジョンの分析において、若年世代の中でも特に20代前半の転出が多いことから、若年世代を目的とした施策を組むため、当該指標とした。

数値：過去に実施したアンケートを参考にした。

平成26年度 10～20代75%、30代75.4%、40代84%

40代以降では84～90%の割合で「住みよい」と感じており、年代が上がるにつれてその割合が高まる傾向にある。

そして10～30代となると、学生から社会人となり、さらには結婚・出産といった人生のステージが変わるときである。そうした世代の「住みよさ」を上げるため、若年世代の仕事や子育て環境を整えることで、住みよさを感じてもらい、割合を上昇させる。

仕事や子育てなどの生活環境が落ち着いた40代の数値を参考にし、現状値と10%の差があることと、現在10～30代の人たちの5年後の目標値ということを考慮して、10%の半分の5%の上昇を加算した。

75% + 5% = 80%